

棚田地域の震災復旧・復興、そして 2019 年台風 19 号を考える

ー長野県の事例からー

趣旨

今回のミニ・シンポジウムは当初、「棚田地域の震災からの復旧・復興ー阪神淡路大震災、中越地震、長野県北部地震で蓄積された経験知の継承ー」と題し、地震災害により被災した棚田地域を対象に、これまで蓄積された経験知を如何に継承するか、をテーマとする予定であった。しかし、つい先日(10月12日)に東日本を中心に多大な被害をもたらした台風19号により、本大会開催地である長野県も甚大な被害を受けたことを受け、当初のテーマに加え、台風19号によりもたらされた災害についても触れ、災害の新たなステージへの突入とも評される状況を確認しつつ、農村計画学としてこうした事態にどのように向き合うべきか、を考える場としたい。

まずは、地震災害の復旧経験知が伝えられ、復興に役立てた長野県北部地震の栄村を例に、それを可能にした背景、取組みの実態・経緯を研究者と地元住民が語る。一方、今回の台風19号災害の特性として、①地球規模の気候変動(海水温上昇)による台風勢力巨大・常襲化、②広域流域型洪水の様相、③上流域での降雨が時間差で下流域に影響を及ぼすことへの対応力不足、④重要インフラ(新幹線、役場、病院等の例)の機能不全による影響など、があげられる。これに対して計画学の「設計科学」的視点から、「土地利用計画論」の再考などを議論出来ればと考える。

日時：2019年12月1日(日) 13:30~15:30

会場：長野大学 2号館 2階 202

プログラム

報告

1. 栄村の震災復旧・復興への関わりー三つの棚田地域の震災調査からー
木村和弘(信州大学名誉教授)
2. 長野県栄村小滝集落 震災復興への歩み
樋口正幸(長野県栄村小滝 合同会社小滝プラス代表社員)
3. 2019年台風19号から「土地利用計画論」を再考する
内川義行(信州大学農学部助教)

ディスカッション

コーディネーター 坂田寧代(新潟大学農学部准教授)